



群馬県立前橋東高等学校進路指導部

■第1回進路希望調査の結果から

4月に実施した第1回進路希望調査の結果から前東生の進路希望の傾向について考えてみようと思います。

●国公立大志望者がほぼ半数以上

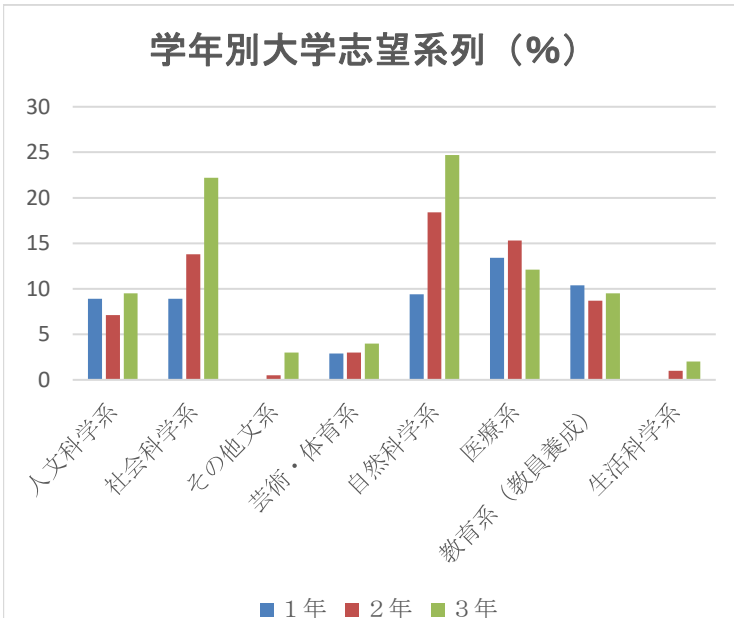
左の表は「進路希望調査」から学校種別に志望を集計したものです。各年次とも、**国公立大志望が最も大きな数値**を示しており、ほぼ半数以上の人为国公立大を志望しています。1年生は入学したばかりで当然ですが、未定の人約30%います。前回調査（昨年度9月実施）と比べてみると、現3年生はどの学校種別も前回2年次とほぼ同数です。現2年生は未定が前回1年次14.9%から今回19.4%と微増、

学校種別	1年	2年	3年
国公立大	49.2%	50.1%	67.1%
私立大	4.9%	17.9%	20.2%
短大	0.0%	0.0%	0.5%
専門学校	1.4%	3.0%	3.5%
未定	31.8%	19.4%	4.5%

国公立大が前回1年次60.3%から今回50.1%と減少、私大は前回1年次19.1%で今回も19.4%とほぼ同数です。志望は変わり得るものではありませんが、国公立大志望者が多いのは事実であり、志望実現のために早めの準備が望まれます。

●2、3年生は自然科学系、1年生は医療系の志望者が多い

左は、大学志望者がどのような系列を志望しているかを集計したグラフです。全体としては、自然科学系、社会科学系、医療系の順に人気です。学年別に見ると、**1年生は医療系志望者が最も多く、次いで教育系が続いています。2年生は自然科学系、医療系の順、3年生は自然科学系、社会科学系の順**になっています。**この3年生の両系は、全体の中でも特に高い数値で、人気が集まっています。**



●全国の傾向と比較すると

全国的に見ると、国公立大は「**弱めの『文高理低』傾向**だが、25年に比べて**文理の差は小さくなって**いる。23年まではコロナ禍の影響で『文低理高』傾向で、24年と25年は就職事情の好転などを背景に『文高理低』だった。しかし、その傾向も落ち着いてきたようだ。**外国語が人気を集めているものの、その他の文系はほぼ前年並み。文・教育・教養の人気はやや低下**した。一方、理系ではコロナ禍の収束以降、**医、薬、医療・看護系統の減少傾向が継続**。その他、理がやや減少したものの、**工、農・水畜産・獣医は堅調だ。**」（旺文社教育情報センター「2026年国公立大一般選抜 志願者動向分析」）とされています。

「文系では、**『法・政治』『経済・経営・商』で「志望者が増加**」（河合塾Kei-Net「全統模試からみる2026年度入試の志望動向」）との指摘があります。特に「**経済・経営・商**」は実学で、「**就職の強さや安定志向**」が反映しているようです。全国の傾向は3年生の自然科学系・社会科学系人気と合致していると言えるでしょう。年次間で志望傾向に違いがありますが、人気に左右されることなく、自分のやりたいこと、なすべきことを見定めることが必要と考えます。

●前東生は具体的にどんな大学を志望しているのか？

右の表は、今回の調査から県内国公立大学の志望者数を集計したものです。**志望大学のトップは「群馬大学」**です。学部別に見ると**最も多いのは共同教育学部で40名**となっています。内訳は1年次が13名、2年次が10名、3年次が17名です。各年次においても共同教育学部が最も人気です。**前東生の地元志向・教育学部志望を如実にあらわした結果**となっています。

【県内国公立大学】※第一志望者の人数			
大学	学部	人数	合計
群馬大学	共同教育	40	90
	保健	0	
	情報	13	
	理工	18	
	医	19	
高崎経済大学	経済	18	31
	地域政策	13	
群馬県立女子大学	国文	1	7
	英米	3	
	国コミ	1	
	文化情報	2	
群馬県民健康科学大学	看護	6	14
	放射線	8	
前橋工科大学		9	9

●県外では、どのような国公立大学に目を向けているか

次に、右下の表は県外で回答が多かった国公立大学の集計結果です。

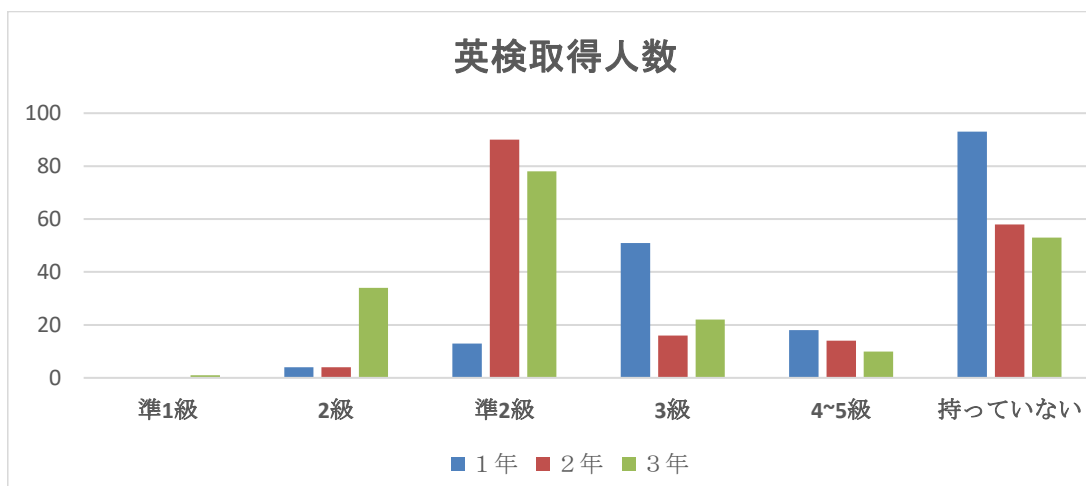
志望者の多い順から並べると、新潟大学、千葉大学、都留文科大学の順になります。**各年次に共通するのは千葉大学**です。また、**年次が上がるにつれて千葉大学、筑波大学以外の大学に志望が広がっている**ことが分かります。

【県外で回答が多かった国公立大学】				
※第一志望者の人数				
大学名	1年	2年	3年	合計
茨城大学	0	2	4	6
埼玉大学	0	0	4	4
千葉大学	4	3	2	9
信州大学	0	0	3	3
宇都宮大学	0	1	2	3
横浜市立大学	0	0	1	1
新潟大学	0	4	7	11
筑波大学	3	0	3	6
都留文科大学	0	3	5	8

千葉大学・筑波大学の志望はぜひ継続させてほしいと思います。地元志向が強い前東生という事実があります。地元の大学はここだが、地元以外の大学ならばここといったように、条件を変えて関東近辺にとどまらず、大学調べしておくべきだと思います。あとから入りたい大学が出てきた、学習が間に合わないなどと、準備に手遅れがないようにしたいものです。

●前東生は何人が英検2級を持っている？

今回の進路希望調査から集計した、前東生の英検取得人数をグラフにしました。準1級取得者は1名（3年生）です。全校で2級は42名（7.5%）、準2級は181名（32.4%）です。**2級以上は大学受験に利用できる場合があります。1・2年生の早期から2級取得を目指しましょう。**



■4月に実施したスタディーサポートの結果について、各年次主任の先生からのコメントを紹介

各年次主任の先生方に、主に次の3項目についてコメントをいただきました。

- ①生徒の進路希望・学習時間についてのアドバイス等について
- ②6～7月の時期（夏休みに入る前）にやっておくべき準備・心構え等について
- ③その他（各年次に合わせた必要事項）

自分の年次以外のコメントもぜひ読んでください。1年後の自分、2年後の自分はどうするべきか、参考にしましょう。

○3年次主任 田島先生

今回のスタディーサポート・進路希望調査の結果では、昨年度と比較して進路希望に前向きな変化が見られます。約9割の生徒が早期から具体的な志望校を掲げ、意識の向上が数字に表れています。現時点で志望は県内大学に集中する傾向がありますが、1年次に大学見学で訪れた新潟大学を志望する生徒も複数見られます。大学を深く知ることは、自分の可能性や選択肢を広げる絶好の機会です。視野を狭めず、ぜひ「外の世界」にも目を向けてみてください。

一方、全体の約9割が不安を感じ、過半数が対策未着手という現状もあります。その要因は学習時間にあります。現在、平日の家庭学習時間が「2時間未満」の人が約7割を占めており、この現状が焦りを生む直接の原因です。「行ける大学」ではなく「行きたい大学」への進路実現のために、今すぐ具体的な行動を起こし、学習時間を確保しましょう。

6・7月は、部活動引退後の生活リズムをいち早く「受験モード」へと切り替える重要な時期です。夏休み前に基礎固めの計画を立て、実践に落とし込みましょう。自信を持って次の一步を踏み出すことを期待しています。

○2年次主任 石田_友先生

2年生のこの時期は、部活動や学校行事で中心的な役割を担うようになり、充実する一方で学習時間が最も減少しやすい危険な時期でもあります。「部活が忙しいから」と言い訳を作らず、まずは毎日30分でも机に向かうルーティンを死守しましょう。目標なき学習は長続きしません。今のうちから自分の興味のある分野や進路希望に目を向け、学ぶ目的を明確にしてください。

また、夏休みに入ると、オープンキャンパスへの参加や本格的な受験勉強のスタートなど、選択を迫られる場面が一気に増えます。そのため、6月～7月の段階で「事前のリサーチ」を徹底することが肝心です。気になる大学などの情報を集め、夏休みに「どこに行き、何を見るか」の計画を前もって立てておきましょう。先手必勝の心構えが、充実した夏を作ります。

2年生は「黄金の準備期間」です。3年生になってから焦っても、基礎を固める時間は限られています。今受けている日々の授業、定期考査一つひとつが、すべて将来の選択肢を広げるための土台となります。

「まだ2年だから」ではなく「もう2年」という意識を持ち、一步先を見据えた行動を開始しましょう。



○1年次主任 亀井先生

今回のスタディーサポートおよび進路希望調査の結果が出ました。結果を分析すると、「ほとんどの人が進学を希望し、約半数が国公立大学を志望している」ということがわかりました。では、肝心の実力はどうでしょうか。全体としての平均値は「地方国公立・中堅私立大挑戦レベル」となりました。一見、「大丈夫じゃないか」と安心してしまいかもかもしれませんが、中身を詳しく分析すると、**基礎学力の低下**がはっきりと現れています。

- **国語**：古文単語が苦手（というより覚えていない）
- **数学**：知識理解が苦手（方程式の基礎を覚えていない）
- **英語**：知識理解が苦手（文法と基本単語を覚えていない）

また、中学時代の学習時間をみると、**平日が1時間半程度、休日が2～3時間程度**が平均値となっています。このままの学習習慣で進むとどうなるのでしょうか？ おそらく、学力は低下していく一方だと予想されます。

今が変わるチャンス：何をやるべきか？

これを読んで「自分自身のことだ」とドキッとした人は、今が変わるチャンスです。やるべきことはシンプルです。

1. **基礎的な「覚えること」を地道に覚える** 古文単語、活用形、英単語、数学の方程式……これらがあって初めて、活用・応用ができるようになります。
2. **「学習する体力」をつける** 普段の平日や休日は、課外活動との両立を果たしながら、いかに学習時間を捻出していくか。「自分の生活を自分で律する（自律）」がカギになります。

日々の差が、将来の「埋められない差」になる

考査前や長期休暇など、まとまって時間が取れる時にどれだけ量をこなせるかが勝負です。例えば、考査1週間前の平日はやろうと思えば5～6時間、休日は10時間できます（私の現役時代もやっていました）。実際、今回の中間考査前の学習時間調査でも、やっている人はこの時間を達成しています。

日々の学習時間の差は、3年間でどれだけ開くでしょうか？ 2年生になると1年分、3年生になると2年分の差を後から埋めなくてはなりません。

まずは「学習する体力」をつけようと、皆さんが奮起してくれることを期待しています。

